

三者懇談近づく (スクールカウンセラーの相談も)

長かった一学期もいよいよ終わりに近づき、三者懇談の時期になってきました。1学期末三者懇談は、7月14日(月)～17日(木)の4日間(いずれも午後)実施されます。保護者と生徒と担任とが生徒の今後を考えて話し合いをする大切な機会です。

「今までこうだったから、今この結果なのだ」と現実を見つめ、よって、「このまま継続すればよい」のか「改善してもっとよくしたい」のかを考え、更に現在困っていること・悩んでいること

・不安に思っていること・聞いてもらいたいこと等をザックバラに話し合ってください。

学年によって、話の内容は変わってくると思います。それぞれの学年にとって『大切』なことを基本に、夏休みや今後の生徒の生活・学習についての話し合いになると思います。前向きに話し合うことが改善・向上につながります。(経験者のつぶやき…) また、14日(月)は、午後1:00～3:30の間本校スクールカウンセラーの光岡先生による教育相談もすることができるよう設定してありますので、担任との話し合いで困ったことや、家庭のこと、子どものこと等何でも結構ですからご相談下さい。(ご相談の希望につきましては、後日通知をお配りいたしますのでお申し込み下さい。)一人で悩んでいないで、話しをしてみるだけで解決することが出来ます。なお、スクールカウンセラーとの話し合いは、絶対に秘密になっておりますので安心してお申し込み下さい。



チョット聞いて下さい!!

子どもに意欲(ヤル気)を起こさせる要素とは?

今、学力低下問題でいくつかの視点(「ゆとり教育」や「学校週5日制」、「新学習指導要領」、「授業時数」等)が取りざたされていますが、私は、今最も重要視しなければならぬことは、日本の子ども達の「意欲」や「ヤル気」をもう一度呼び起こし、引き出すことではないかと思っています。「論語」には「知る者といえども、好む者にしかず、好む者といえども、楽しむ者にしかず」とあります。いくら物事を知っている人でも、そのことが好きな人にはかなうはずもなく、いわんや、楽しみながらそのことをなす人には、誰もかなうわけがないのかもしれない。楽しんでる人を見ると、そのことを深く見ようとし、更に知ることによって、そのことがますます好きになり、とても楽しそうに見えるものです。だとすると、人は誰でも「好き」で「楽しい」ことには「ヤル気」が出るものと言えそうです。まず、このことを前提としながら、「ヤル気を生む要素」や「ヤル気エネルギーを生む指導法」としてどんなものが考えられるか、その要素を考えてみます。

1. 目標の明確化

「ヤル気」を生むための第1の要素は、目標や目当てを具体的に定めることです。

一人ひとりが具体的に到達可能な目標やめあてを決めない限り、主体的で意欲的には進まないと思います。(100マス計算が売れているのも、明確な範囲と時間という具体的な目標が定まっているからです)

2. 方法の具体化

「目標」「めあて」を達成するための「具体的な手だて」を講じる。

「子どもには、もともと課題を解決する力が備わっています。」しかし、子どもが課題や目当てに立ち向かう時、具体的な内容・方法を教えないと、途中で嫌になり、投げ出してしまいます。

3. 成果の確かめ

子どもに現在地点を客観的に教示してあげることが「ヤル気」に繋がります。

その評価の1つとして「褒める」ことと「叱る」ことが「ヤル気」に関わってくるのです。人は認められ、励まされてこそ「ヤル気」が出るものですから、「褒められること」で更に「ヤル気」が出ることは間違いありません。

4. 自己有用感と自尊感情

「ヤル気」を起こすためには、他人から必要とされている「自己有用感」が必要。

自分がこの世で必要とされていると感じた時、人はまさに生き生きとして「役に立ちたい」と思うものです。

◎ここに紹介した4つの要素を例として、子どもさんと取り組んでみて下さい。

※訂正 前号でお知らせをした『陸上競技の結果』に誤りがありましたので訂正します。

共通女子 100m3位 西村真央、共通女子 4×100mR2位(大村・藤原・古屋・西村)、1年女子 4×100mR4位(田村・中込・三井・遠藤)、共通男子 4×100mR9位(望月・瀧・雨宮・梶) (全て県大会出場です) ゴメンね!